



目次

第18回大会
報告

P.1

第18回大会
を終えて

P.3

第20回総会
報告

P.3

決算報告・

予算

P.4

学会員著書

P.5

機関誌『東洋
大学社会福祉
研究』

No.17の発刊

P.5

機関誌『東洋
大学社会福祉
研究』No.18の原稿
募集

P.5

事務局からの
連絡

P.6

東洋大学社会福祉学会第18回大会報告

テーマ：「東洋大学における社会福祉学のリカレント教育」

2024（令和6）年7月13日（土）11時から16時にかけて、東洋大学赤羽台キャンパス（HELSP0ホール：3号館3階）にて、社会福祉学会第18回大会が開催されました。

本大会には、大学院生・卒業生、本学の教員、さらに学外からも多くの参加者が集まり、活発な議論と交流が行われました。多くの方々の参加により、盛会のうちに無事終了いたしました。

■シンポジウム

社会福祉分野におけるリカレント教育の重要性が強調される中、本学の取り組みと課題を中心に議論が進められました。司会は藤林慶子会員が務め、以下の3名が登壇し、それぞれの視点から興味深い報告がありました。学会HP（<https://toyo-sws.chips.jp/symposium/>）に当日の資料を掲載しています。



1. 萩野剛史 会員（東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授）

「リカレント教育に関するアンケート結果から」

リカレント教育に対する社会人のニーズに関する調査の中間報告を発表しました。報告では、アンケート調査をもとに、学び直しを求める背景や求められる学習内容、学習環境について分析が行われました。



2. 熊田博喜 会員（武蔵野大学 人間科学部 教授）

「米国大学・大学院での社会人教育と武蔵野大学での実践」

アメリカ留学の個人的な体験と、現在勤務する武蔵野大学での通信教育大学院における実務を通じたリカレント教育の実践という、2つの側面から報告を行いました。



3. 藪長千乃 会員（東洋大学 国際学部 教授）

「国際学部で社会福祉を教えていることの意義と社会人教育」

東洋大学国際学部国際地域学科での教育方針に基づき、社会福祉教育の意義と社会人教育の役割について報告し、学生が修得すべき資質・能力を具体的に示しながら、教育と実践の両面について語りました。



■交流会

大会終了後は、HELSP0 食堂にてお茶とお菓子を楽しみながらの交流会が行われました。新会員の紹介も交え、参加者同士の親睦を深める貴重な時間となりました。参加者からは「他分野の取り組みを知る良い機会になった」との声も多く聞かれ、有意義な時間となりました。





■おわりに

今回の大会は、社会福祉学のリカレント教育について、大学内外の視点を交えた貴重な議論の場となりました。参加者からも多くの学びと発見が得られたとの感想が寄せられ、今後の研究や教育活動に大いに活かされることが期待されます。学会の皆さま、ご参加いただいた全ての方に感謝申し上げます。

第 18 回大会を終えて

小野 道子

今大会は、昨年までの2年間とは趣向を変え、パネリストによるシンポジウム「東洋大学における社会福祉学のリカレント教育」を赤羽台キャンパスにて実施しました。

12時からの学会年次総会の終了後、13時より、第18回大会を開始しました。藤林慶子会員による司会進行で、荻野剛史会員、熊田博喜会員、藪長千乃会員の3名の会員に、東洋大学や武蔵野大学、米国大学院でのリカレント教育の実践についてのニーズや実践における課題、意義などについて発表していただきました。会場からも活発な質疑応答が行われ、社会福祉学におけるリカレント教育についての学びを深めることができました。シンポジウム終了後には、HELSPPO 食堂にて懇親会を実施し、昨年につき、会員同士の親睦を深めることができました。

今年は、社会福祉学科の赤羽台キャンパスへの移転、福祉社会デザイン学部社会福祉学科として新たなスタートを切ってから2年目にあたり、昨年度から入会された新たな会員も増えました。来年度の大会も皆様方に奮ってご参加いただけますよう、準備を開始しています。来年度大会についてのご要望などがありましたら、ぜひ事務局までお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、今大会担当理事として、皆様のご協力に深く感謝申し上げたいと思います。伊奈川会長、佐藤事務局長、財務担当の藤木理事・奥西理事、学会ニュース担当の孫理事・小出理事、HP担当の小櫃理事、福祉社会開発研究センターRAの皆さんなど、準備から当日まで様々なご協力をいただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

第 20 回総会報告

東洋大学社会福祉学会 第20回総会が、第18回大会の同日13時より HELSPPO ホール（3号館3階）にて開催されました。審議結果及び報告事項は下記の通りです。

(1) 会員数 2023年度新規入会者21名、退会者1名、総会員数204名（2024年3月末現在）

(2) 2023年度事業及び会計報告、2024年度事業計画案及び予算案について

総会では、2023（令和5）年度事業報告として、ニュースレターの発行（第44・45号）、東洋大学社会福祉学会第17回大会開催（2023年8月6日）、機関誌『東洋大学社会福祉研究』第16号（2023年7月）の発刊が報告されました。合わせて2023年度の決算報告が行われ、承認されました。引き続き、2024（令和6）年度の事業計画案（機関誌『東洋大学社会福祉研究』第17号の発行、ニュースレター（年2回、第46・47号）の発行、東洋大学社会福祉学会第18回大会（2024年7月13日開催）が提示され、事業計画に基づく予算案と共に承認されました。

(3) HPのリニューアルを行いました（2024年4月～）

(4) 入会費のクレジットカードによる振込み手続きについて：引き続き、非対応のままということが報告されました。

(5) 機関誌『東洋大学社会福祉研究』への論文投稿は、HP内から電子媒体で原則10,000字から30,000字程度（図表を含む）への変更が承認されました。

決算報告・予算

2023 年度決算

収入			支出		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
前年度繰越金	¥2,092,023		第17回大会運営費	¥287,786	
			(内訳)	¥17,820	総会お弁当代
				¥222,966	懇親会関係
年会費	¥64,000	1,000 × 10 2,000 × 27		¥47,000	人件費
			機関誌費	¥193,996	社会福祉研究第16号 印刷・製本
過年度会費納入	¥0		学会事務費	¥162,339	
			(内訳)	¥29,440	人件費 (事務処理、ニュースレター発送作業等)
翌年度以降会費納入	¥1,000			¥79,069	郵送関連費 (ニュースレター、学会誌等)
				¥3,960	学会HP関係
				¥5,750	印鑑代
学会誌販売、郵送料	¥0			¥43,120	封筒印刷代
				¥1,000	お車代
			払込手数料	¥1,760	
小計	¥2,157,023		小計	¥645,881	
次年度繰越金	¥1,511,142				

2024 年度予算

収入			支出		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
前年度繰越金	¥1,511,142		第18回大会運営費	¥100,000	花代、茶菓子代、印刷代
年会費	¥338,000	1,000 × 24 2,000 × 157	機関誌費	¥250,000	印刷代、製本代
過年度会費納入	¥250,000	1,000 × 50 2,000 × 100	学会事務費	¥333,500	
				¥15,000	人件費(ニュースレター発送作業アルバイト)
				¥50,000	郵送・配達料 (ニュースレター、学会誌、査読関連他)
				¥220,000	学会HP作成費
				¥38,500	学会HP管理費
				¥10,000	事務消耗品
				¥3,000	雑費(振込手数料等)
小計	¥2,099,142		小計	¥683,500	
次年度繰越金	¥1,415,642				

◆特別会計

2023 年度決算

収入			支出		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
前年度繰越金	¥752,712				
小計	¥752,712		小計	¥ -	
次年度繰越金	¥752,712				

2024 年度予算

収入			支出		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
前年度繰越金	¥752,712				
小計	¥752,712		小計	0	
次年度繰越金	¥752,712				

学会員著書

2024年度出版の学会員著書（分担執筆も含む）をご紹介します。

- Soshiro Yamada, Yusuke Kakita, Hiroshi Goto : Research Handbook on Homelessness: (Chapter 24 The impact of COVID-19 on homelessness in Japan) : Edward Elgar Pub Publishing, 2024
- 荒井浩道・長沼葉月・後藤広史・木村淳也・本多勇・木下大生（2024）『ソーシャルワーカーのミライ 混沌の中にそれでも希望の種を蒔く』生活書院
- 伊奈川秀和（2024）『〈概観〉社会福祉法〔第3版〕』信山社

*学会員著書については、ニュースレター担当（小出 koide@toyo.jp）までお知らせください。掲載致します。

機関誌『東洋大学社会福祉研究』 No.17 の発刊

機関誌『東洋大学社会福祉研究』No.17を2024年7月に発刊いたしました。2023年度シンポジウム、学位取得者論文要旨、学会活動報告、投稿規定、執筆要領などを掲載しています。年会費納入済みの会員には、本ニュースレターと一緒に、本機関誌No.17を送付いたします。

機関誌『東洋大学社会福祉研究』 No.18 の原稿募集

機関誌『東洋大学社会福祉研究』No.18の原稿を募集しています。投稿の締切は「毎年3月末」です。投稿規程・執筆要領はHP（<http://toyo-sws.chips.jp/>）の「投稿規定（PDF）」をご参照下さい。査読後、編集委員会を経て掲載を決定いたします。奮ってご応募下さい。投稿についてご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい（お問い合わせフォーム：<https://toyo-sws.chips.jp/contact/>）。

「東洋大学社会福祉研究」投稿規程（2024年7月13日の総会で、下線部の変更が承認されました）

1. 投稿資格

投稿者は、原則として東洋大学社会福祉学会会員とする。ただし、以下の場合には、編集委員会の判断によって投稿を受理できる。

1) 編集委員会において特別に依頼する場合。

2. 原稿の種類

1) 原稿の種類は、論文、研究ノート、翻訳、資料とする。

2) 論文は、他に未発表のものに限る。投稿論文と内容が重複・類似した既存発表論文または他誌に投稿中の論文がある場合は、投稿者は、必ず当該論文のコピーを添付することとする。編集委員会で受理の諾否を決定する。

3) 翻訳・目録・資料で単独の原稿をなすものには、解題・解説を付けることが必要である。

3. 原稿の枚数

1) 原稿は、原則として、10,000字から30,000字程度（図表を含む）とする（印刷した紙媒体を電子媒体と共に提出、20,000字以内【図表を含む】から変更となりました）

4. 原稿の採否

1) 原稿の採否、ならびに論文の修正の指示は、選定されたレフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定する。

5. 投稿形式

- 1) 投稿は、電子媒体で行う（原則、学会 HP の問い合わせフォームから投稿すること）
（プリントアウトしたハードコピーを添付する必要がなくなりました）。

6. 要旨・キーワード

- 1) 原則として、400 字程度の要旨と、5 個以内のキーワードをつける。

7. 執筆要領・執筆要領

- 1) 編集委員会においてその内容を検討し決定する。

8. 自由投稿論文の原稿は、掲載の可否にかかわらず返却しない。

事務局からの連絡

● 年会費の納入について

<会費納入の口座変更のお知らせ>

下記口座への入金をお願いします（以前のゆうちょ銀行は、使用しないでください）。
ご協力お願いいたします。

三井住友銀行 白山支店

普通口座 6689065

名前 白山社会福祉学会 事務局 金子光一

会費：一般 2,000 円、学部在学学生・大学院生 1,000 円

学会機関誌は、年会費の納入のあった会員に配布しております。

● メールアドレスの情報提供について

今後学会からのお知らせ等をメールでもお伝えしたいと考えています。E メールアドレスの情報提供をお願い致します。下記までお名前・ご所属・E メールアドレス等をご記載の上、送信して下さい。

https://docs.google.com/forms/d/1iG47QdGjA7h_qwDB_ywCJFrshgHZ9njvI3v8Cg7HPZY/edit?ts=62bd3bcc

HP 上に Google フォーム、QR コードを記載しています。そちらもご活用ください。

※住所や勤務先の変更、ご意見・ご要望などございましたら、事務局までお知らせ下さい。



【事務局連絡先】

〒115-8650 東京都北区赤羽台 1-7-11 WELLB-HUB2

東洋大学社会福祉学会事務局 佐藤亜樹 Tel : 03-5924-2369

Email : sato048@toyo.jp

（お問い合わせフォーム：<https://toyo-sws.chips.jp/contact/>）